



14 川端龍子 松鯉図

昭和十三年（一九三八） 絹本着色
本紙八二・一×一一五・〇

一幅

昭和十二年の春に御下命を拝してから構想を練り、その翌年三月に完成した作品である。鯉は川端龍子が好んだ得意のモチーフであり、昭和五年の第二回青龍展に出品し朝日賞を受賞した「魚紋」や昭和十四年の第十一回青龍展に出品の「五鱗図」といった代表作がある。しかしそれらが機知に富んだ幾何学的な構図であるのに対し、本図は松の樹の下を、四尾の黒鯉がゆったりと優雅に泳ぐ自然な姿を描く。墨の陰影で鯉のぬらりとした質感まで見事に表現され、尾の微妙な動きには川端の観察眼がうかがえる。

川端にしては珍しい奇をてらわない素直な描写は、本図が御下命作という事で皇室へ納めることを強く意識して描いたものであることが大きいだろう。川端は元日に斎戒沐浴して身を清めた後、筆をとって制作にあたったという。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections